

東区 中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名：地域で子どもを見守るボランティアパトロール活動

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

平成16年頃より、全国的に不審者が出現し、子ども達が危害を受ける事例が多発した。当地区ではコミ協を立ち上げた当初より、地域が一丸となって子どもが安心して生活できる見守り活動に取り組む必要があると考えました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

子どもたちへの声掛けや巡回を行い、犯罪などの危険な事態が子ども達に及ばないような環境をつくることです。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

全自治会に呼びかけパトロール隊員を編成し、児童の下校時に合わせたパトロールを組織的に実施しました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

中野山小学校及び中野山小学校PTA

実 績 ・ 効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

次第に参加者も増えるようになり、地域の中で、「子ども達を危険から守る」という意識とともに住民同士の連携もできてきました。

また、子どもたちの声かけにより、大人と学校の関係改善がすすみました。

さらに、巡回中パトロール隊員と地域住民との挨拶等交流もできています。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

当初は、ユニホームの調達等経費の面で大変でした。関係機関の協力得ながら、当地域だけのユニホームを整備してきました。少しでも幅広い年齢層の方からパトロールに参加してもらうよう心がけています。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

少しずつ、PTAの協力も得られ年齢層が広がる一方、ベテラン層の年齢が上がり対策が急がれています。地域の安心安全を守る重要な活動なので、しっかりした対策を住民の皆さんと共有し取り組んでいきたいと考えています。



1年生全員の感謝の集い

東区 中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名：地域住民の福祉促進活動

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

平成20年より、地域包括支援センター石山や社会福祉協議会の支援を受けて「地域の茶の間なかのやま」を立ち上げ、高齢者の居場所づくりを進めてきた。当地区でも高齢化が進み、地域の支えあいをさらに進めることが重要になってきています。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

支え合いがあり、誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを目指す。その第一歩として、高齢者の居場所づくりを進める。同時に、広い世代の交流の場に高齢者も積極的に参画するよう留意する。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

コミ協の事業に高齢者も活動できる場を作り役割を担ってもらう。「地域の茶の間」を拡大し「認知症サポーター養成教室」や「介護教室」等の学習会や健康教室等の講座も開き、広く「自分の健康をどう保持するか」という意識の醸成のきっかけづくりをする。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

社会福祉協議会中野山支会、民生・児童委員協議会、地域包括支援センター石山

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

「地域の茶の間なかのやま」に参加する人が増えるとともに、ボランティアとして参加する団体がバラエティに富むようになった。また地域住民の交流の輪が広がってきた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

「茶の間」の企画運営の中心になるメンバーを主とサブで構成しその連携を図る場を重視してきた。「茶の間」にボランティアとして参画する団体個人を広く募った。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

大変困難ではあるが、財政の充実を図り、交流事業の多様化を図る。また、ボランティアの人にわずかではあっても費用弁償をする仕組みづくりをしたい。



東区 東山の下コミュニティ協議会

活動名：「東山の下フェスティバル」の開催

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

災害時の一次避難場所である小金公園があまり知られていないことから、認知度の向上と災害時に重要となる地域の“絆”を深めるために、小金公園での「東山の下フェスティバル」の開催を計画した。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

コミ協初めての試みの大きなイベントであり、来年度以降も継続可能なものとするため、コミ協の総力をあげて成功させることを目標とした。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ① 自治・町内会はじめコミ協構成団体の協力を得て実行委員会を組織して取り組んだ。
- ② 実行委員会で素案を作成し、ブロック会議更には「コミ協、自治・町内会、実行委員会合同会議」を経て、子供も大勢参加できるように下記の事業内容を決定し実施した。
 - ・野外ステージ（子供万代太鼓、踊り、フラダンス、中学・高校の吹奏楽演奏等）
 - ・子供イベント広場（ヒップホップダンス、ポップコーン・ジュースの販売等）
 - ・健康福祉、防災減災コーナー（日赤の血圧測定・子供ゲーム、社協の展示等）
 - ・物販コーナー（ニジマスのつかみ取り、カレーライス、カキ氷等）
- ③ 各自治町内会でのポスターの掲示、全世帯へのチラシ配布、小・中学校へのPR。
- ④ 会場の環境整備のために小金公園の清掃を3回実施。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

実 績 ・ 効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

予想以上の参加者（約2,500名）があり、一次避難場所としての小金公園の認知度の向上が図れた。

老いも若きも一緒に楽しめるフェスティバルを実施でき、地域の親睦が図られ、顔の見える地域づくりに大いに役立つものと考えられる。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

フェスティバルの成功のためには、自治・町内会の理解と協力が不可欠なことから、予めフェスティバル開催に当たってのご協力をお願いした。

コミ協として大掛かりなフェスティバルのノウハウはなく、ステージはじめ設備関係の購入・設置と小川の清掃等公園の環境整備に苦労した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

一次避難場所としての小金公園の認知度の向上及び地域の親睦を更に進めるため、来年度以降も毎年継続し実施する。



東区 新潟市木戸地域コミュニティ協議会

活動名：東区・工場夜景バスツアー事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

東区は工場の多い地域であるが、これら工場の夜間操業により生み出される夜景は、毎日眺めている当たり前の景色であった。しかし、首都圏では工場夜景ツアーに人気があるということを知り、我々も東区の魅力を引き出そうということで企画した。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

工場夜景だけでなく、東区の魅力あるいろいろな夜景を多く取り入れることとした。
視野を広くするため、他の団体の協力を得ることとした。
新潟県立大学の学生は、授業の中で通船川の見方を変えるような提案をしていたので、ガイドをお願いすることとした。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

観賞ルートと観賞場所を事前に、ツアー時間帯に合わせ数回確認した。
・新潟空港の夜景においては、飛行機の発着も見れる時間帯に合うようにした。
・新潟県立大学の学生さんに「外からの目でみた」感性も入れたガイドをお願いした。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

NPO法人まちづくり学校 新潟県立大学 通船川・栗ノ木川ルネッサンス

実 績 ・ 効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

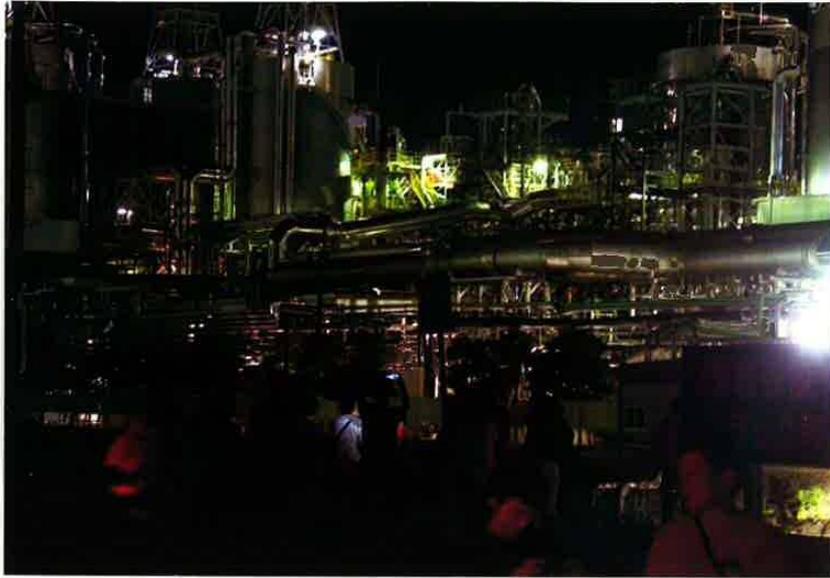
東区に住む人たちは魅力あるこの町を誇りに思い、東区以外の人には東区の魅力を改めて感じてもらった。参加者からは、このような事業の継続希望が多く聞かれた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

参加者募集を先着順としたが、チラシの回覧回りが町内によって異なるため、申込時には定員に達し、断らなければならない事態も多かった。
申込が人の常駐していない事務局であったため、その後の対応処理に苦労した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

H25年度に定員超えで参加できなかった人や、事前に遠慮してもらった人たちのためにH26年度は実施したい。
参加費は無料としたが、今後はいくらかの参加費を頂くようにしたい。
申込受付は、全世帯に回覧が回った頃からとし、受付窓口はまちづくり学校等をお願いしたい。



工場夜景

バス
ツ

川

15日(日)

Yamanashi
THE GREAT FORTRESS

Yamanashi City Lights of the Evening

砂山夜

工場

■協力：通船川

東区 新潟市木戸地域コミュニティ協議会

活動名：笹団子作り講習事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

当地域では、古くから端午の節句や蒲原祭には、それぞれの家庭で笹団子を作っていたが、最近では殆ど作られていない。従って、その作り方も継承されてなく、寂しく感じていたところであった。そこで、今回その作り方を経験してもらおうと企画した。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

参加者それぞれの団子作成数を事前に申告してもらい、自分の家の分は最低自分達で作るようにした。生地(団子の皮)をこねることから蒸して出来上がるまでを約2時間で行うこととした。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

全くゼロからのスタートとすることが理想であるが、これには多くの時間を要するため生地(団子の皮)は前日にスタッフがある程度作って準備した。
大人も子供も全ての工程(生地のこね、あんこ入れ、笹の葉による包みとスゲによる縛り等)を経験してもらった。殆どが人が初めての経験であった。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

講師の依頼

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

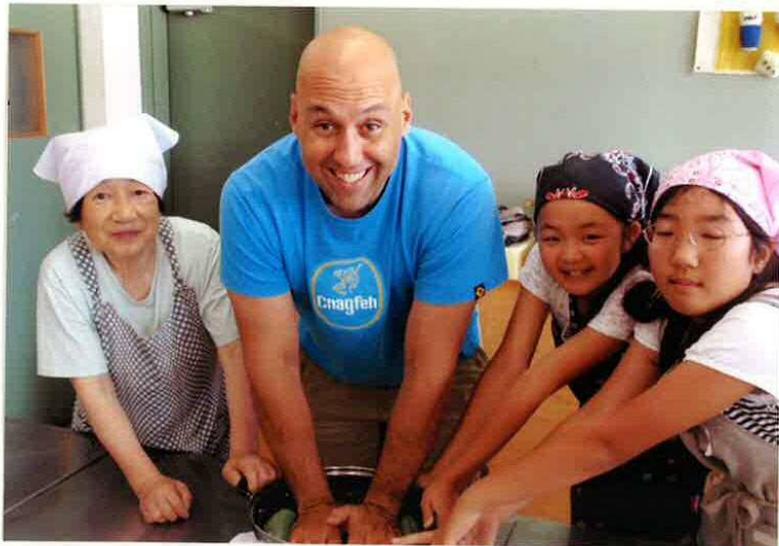
地域及び世代を超えた和やかな交流ができた。
高齢者からの懐かしい一言「65年振りに笹団子を作り美味しく食べながら昔を思い出しました」
子ども達からの嬉しい一言「ひいおばあちゃんのお誕生日に持って行きます」

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

事前の生地づくりが大変であった。
生地(団子の皮)はこね方によって、食感(美味しさ)が違ってくるのでよくこねる指導を細かく行った。
作る数が多いので、わずかな目方の量り違いからあんこ等は不足が生じた。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

今後も、故郷新潟のスイーツである笹団子作りを継承して行けるようにしたい。



東区 牡丹山小学校区コミュニティ協議会

活動名：木戸中学校区 コミュニティカレンダー作成事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

地域の高齢化や少子化が進むなか、地域コミ協の活動において子育て、防犯・減災、環境等の課題を解決していく必要があると考えた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

地域と学校を結び、地域コミュニティの活性化のため、地域住民が参加できる環境を整える事を目標とした。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

木戸中学校、牡丹山及び竹尾小学校、牡丹山幼稚園、木戸中育成協、木戸中コーディネータ、牡丹山及び竹尾小のコーディネータ、木戸中・牡丹山・竹尾小及び牡丹山幼稚園PTAの代表者から集ってもらい編集会議を実施した。
また、各自治会から地域の行事、特に祭りの情報を収集した。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

木戸地域コミュニティ協議会

実 績 ・ 効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

中学校、小学校、幼稚園、育成協等の各種団体、地域と家庭が情報を共有することにより、生徒の見守りや指導、行事の重複を防止することにより、参加率の向上が図れた。小学生のいない家庭で重宝がられた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

見やすい文字の大きさの検討、行事の実施箇所を記載する場合あまり省略しないようにした。欄外や、イラストの活用に心掛けた。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

保育園にも参加してもらい、より広く情報を収集すると共に、地域の連携を深めたい。配布対象者を検討したい。

